

制作部次長 瀬間健司



当社は、本サービスを東京の文京区、千代田区、荒川区に有料サービスとして提案している。4月13日から実証実験を開始し、6月末以降のモニター調査結果で、サービスの可否を決めていたただく。

データ放送のリプレイス時期を迎えるにあたり、昨年メ

のデータ放送信号を出せる機能を持った新製品のプレゼンを受けた。一方、既設の住友電工社のOFDM送出機は、音声信号のみの追加ができ、他県ではラジオ放送を伝送している事例があると聞いた。この2つの機能を利用し

て、防災行政無線の音声を広く確実に、地域の皆様にお伝えする方法はないものかと検討を始めた。検討するにあたり自治体の防災課にヒアリングを行なった結果、次のように課題点を整理した。

①システム連携にあたり既存の防災行政無線設備に改修が必要ないこと

②有事に、自治体担当者の負担が無いこと

③テレビ視聴者側の追加設備が必要ないこと

データ放送とOFDMの技

術の応用は先例があったが、防災行政無線戸別受信機の音声信号をトリガーにコミチャンのデータ放送を起動させる仕組みは先例が無く、対応できる製品探しから始めた。

ちなみに、どの戸別受信機にもスピーカー端子がイヤフォン端子があり、ここから音声信号を問題なく取れることには非常に元気づけられた。

専門技術の知識が無い私は、まず、データ放送のサーバーに「IP信号」を送ればいいと考え、音をIP信号に変えられる製品を探したが、それは無かった。あったのは、接続信号をIP信号に変える製品だった。その製品を作っているメーカーに自分のやりたいことを伝えると、音声信号を接続信号に変える製品を紹介された。

「ここまでたどり着くと、『発声』オーバーレイが出る。『TVから音が出る』までは完成した。しかし、戸別受信端末の音が終了した時点をデータ放送サーバーにどう伝えるか

[illegible]

▲防災行政無線が流れると、テレビ画面の左側に表示が出る

が問題になった。「5分出たら終了とする」など考えたが、どうもすつきりしない。

音声検知装置の取扱説明書を何度も読み返すうちに、分からないうちに、「無音検知モード」という言葉が気になり、メーカーに問い合わせたところ、同じ製品を「音声検知モード」「無音検知モード」として使用でき、2台組み合わせたと「音声発声」と「音声

終了」をデータ放送サーバーに送信できることがわかった。

文京区と千代田区の受信調査をしたところ両区とも問題ない値だったが、荒川区に關しては、距離があり受信は不可能だった。その後、荒川区での受信拠点に戸別受信機を設置し、音声をIP信号で当社の放送設備に伝送させられる製品を探し出し、放送設備に3区の音声信号を集約することにめどが立った。

本件を4月13日にプレスリリースをしたところ、読売新聞都民版と毎日新聞防災ページ担当の記者の取材を受けた。また、総務省消防防犯情報室や都内2つの区の職員、また同業のケーブル局からの問い合わせを受けた。

都市部での防災行政無線のスピーカー音は、建物の高層化に伴い聞き取りにくくなってきた。その一つの補充措置として機能できるように、今後手を休めずに本システムを改良していきたいと考えている。